



集落ぐるみによるサル被害対策

～電気柵で集落を囲み、林縁部をきれいに、追い払いにより被害減少～

サル被害が多い集落において、集落環境調査を行い放任果樹の伐採や侵入経路周辺の環境整備を行い、出没しづらい環境整備を行った。

また、補助事業を活用して集落全体を囲う電気柵を設置し、毎月全戸で草刈りや管理作業を行い、柵の効果を十分に発揮させるとともに追い払いを実施したところ被害は大幅に減少した。

市町村	中之条町		
地区	岩本上組		
集落戸数	35戸	農家戸数	32戸
農地面積	464a		
主な作目	水稻、コンニャク、バレイショ、トウモロコシ等		
加害獣種	サル、イノシシ		

背景

従来からイノシシ被害が発生しており、H10年頃からサルによる被害も増加し、人慣れした個体は貯蔵庫や宅地まで侵入するようになった。

個々にトタン等の防止柵を設置していたが、被害は増加の一途であったことから、H22年度に小規模土地改良事業により集落を囲む電気柵を設置することになり、併せて集落ぐるみによる被害対策に取り組んだ。

事業内容

【主な取組】

- ◆ 座談会による被害対策の検討
- ◆ 集落環境調査の実施と被害マップの作成
- ◆ 電気柵(7段,3600m)の設置(小規模土地改良事業)
- ◆ 調査によりサル等の侵入経路の特定
- ◆ 放任果樹等の伐採

【取組経過】

- H22年 6月 現地説明会(代表者と活動内容を検討)
- 8月 集落環境調査、座談会及び草木の刈払い伐採
- 9月 センサーカメラ設置
- 9月 草木の刈払い伐採
- H23年 1月 調査報告及び検討会

電柵導入後の集落環境調査



みんなで調査・マップ化
そして情報共有



サルに飛び込まれないよう
電気柵沿いをきれいに伐木

成果

- ◆ 放任果樹等（カキ・クリ・クワ等）の伐採および林縁部の草木の刈払いを行い、野生動物が出没しにくい環境に整備することができた。
- ◆ センサーカメラ設置によりサル等の侵入経路を特定し、枝の除去・柵線の張り直しを実施したところ侵入防止が図られ被害は大きく減少した。
- ◆ 被害対策マップを作成したことにより、集落全体で情報の共有化が図れた。
- ◆ 集落全体で話し合い、今後はみんなで協力して鳥獣対策に取り組む合意形成が図れた。



地区代表者 コメント

環境整備や侵入防止柵の設置を住民全員で実施したので、今は皆で集落をきれいにする共通意識ができた。

また、作付けをあきらめていたトウモロコシも作れるようになり、直売所へ出荷できるようになった。

餌付けになることはしない(誘引物の除去)



放任のカキの木

電気柵沿い幅4mを伐木
(延べ12日間)

事後評価

指標	A	B	C	D
被害	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
出没	減った (5-10割)	減った (-5割)	変わらない	増えた
集落環境	改善した	やや改善した	変わらない	悪くなった
集落ぐるみの取組	出来ている	概ね出来ている	一部出来ている	出来ていない
対策実施	よく実施している	概ね実施している	一部実施している	実施していない
波及性	波及した	概ね波及した	一部波及した	波及していない
効果の実感	満足	やや満足	やや不満	不満

センター評価

集落のまとまりが良く、みんなで協力して被害対策に取り組んでいる。電気柵は管理組合を設立して全戸が維持費を拠出し、毎月1回の草刈りを実施して適正に維持管理されている。

また、サルの追い払いを行う人がおり、林縁部は放任果樹の伐採や枝打ちが行われ、環境整備が行き届いていることから、被害は大きく減少している事例である。

課題

高齢化が進展しており、電気柵管理等の労力的不足が懸念される中、ハクビシンの出没が多くなっていることから捕獲対策の取り組みが必要。

伐採することが望ましい藪が数力所残っており、被害対策に取り組むモチベーションの維持を図ることが重要。